

1. 南丹市の高齢者等を取り巻く状況について

南丹市の面積は616.4km²、そのうち森林が88%を占め、この地形の特徴上、谷合に位置する集落が山間地域に点在しています。また、高齢化も進行しており、本市の高齢化率は、平成24年に30%を超え、平成27年10月末では、33.2%、平成28年10月末現在では、33.8%となっており、年々上昇しています。また、本市の高齢化率は、平成27年10月時点の全国における高齢化率26.7%という数字を大きく上回っている状況です。

本市の人口については、緩やかに減少しており、平成22年の34,691人から平成25年には33,987人、平成28年10月末現在では、32,724人となっています。将来人口としましては、平成27年3月に策定しました高齢者福祉計画・第6期介護保険事業計画策定に伴う人口推計において、平成29年には32,744人、そのうち65歳以上の高齢者人口が11,089人、高齢化率は33.9%とゆるやかに増えていくと予測していますが、現状はこの推計を上回るペースで高齢化が進んでいます。

平成28年10月において、本市のひとり暮らし高齢者世帯は2,857世帯、全世帯数に占める割合は20.2%となっており、また、高齢者のみで構成する世帯は1,993世帯で、これらの世帯を合わせると本市の世帯数の1/3以上を占めています。このような中で、高齢者は孤独感や不安を感じながらも、住みなれた地域で生活をしていくことを望まれています。

現在、超高齢化の到来にともない、特に山間地域では近隣高齢者同士での助け合いが難しい状況になっており、自分のことで精一杯で隣人を支える力が無くなってきている集落も増えてきており、地域での生活を続けていくことが困難な集落、いわゆる限界集落が急速に増加しています。このことは山間地域だけの現象ではなく、市内の中心地でもその傾向がみられるようになってきました。

さらに、山間地域での高齢者等の生活そのものの維持も困難化しています。山間地域の交通手段は自家用自動車为主で、高齢者にとっても通院や日常生活物資の確保といった在宅生活を支える重要な交通手段であります。しかし、加齢等にともない自動車の運転ができなくなる人も増え、高齢者の移動手段が途絶えかけています。

これらの高齢化の課題に対しては、本市として総合的な対策が必要となっており、特に高齢者の生活を支える移動手段の確保は重要なものとなっています。

南丹市の高齢者の状況

H28.10.31

		園 部	八 木	日 吉	美 山	南丹市全体
人 口	男	7,872 人	3,545 人	2,440 人	1,898 人	15,755 人
	女	8,199 人	4,016 人	2,634 人	2,120 人	16,969 人
	計	16,071 人	7,561 人	5,074 人	4,018 人	32,724 人
6 5 歳以上	男	1,855 人	1,208 人	829 人	763 人	4,655 人
	女	2,582 人	1,654 人	1,126 人	1,039 人	6,401 人
	計	4,437 人	2,862 人	1,955 人	1,802 人	11,056 人
高齢化率		27.6%	37.9%	38.5%	44.8%	33.8%
7 5 歳以上	男	863 人	600 人	402 人	410 人	2,275 人
	女	1,505 人	979 人	691 人	677 人	3,852 人
	計	2,368 人	1,579 人	1,093 人	1,087 人	6,127 人
後期高齢化率		14.7%	20.9%	21.5%	27.1%	18.7%

H28.10.31

世帯	園 部	八 木	日 吉	美 山	南丹市全域
全世帯数	6,999 世帯	3,166 世帯	2,150 世帯	1,823 世帯	14,138 世帯
6 5 歳以上単身世帯	1,211 世帯	676 世帯	483 世帯	487 世帯	2,857 世帯
高齢単身世帯率	17.3%	21.4%	22.5%	26.7%	20.2%
高齢者のみの世帯	760 世帯	537 世帯	353 世帯	343 世帯	1,993 世帯
高齢者のみの世帯率	10.9%	17.0%	16.4%	18.8%	14.1%

2. 移動制約者の現状について

平成28年9月末現在で介護保険の要介護認定を受けている方（以下「要介護認定者」という。）は2,338人、平成28年3月末現在で身体障害、療育、精神障害者健康福祉手帳の交付を受けている方については3,584人（要介護認定者と重複有）で、前年の3,309人から増えている状況です。

そのうち移送サービスが必要と思われる移動制約者は、在宅で生活されている要介護認定者、障がい者のうち肢体不自由障がいの方、視覚障がいの方が、主な対象となってくると想定されます。

また、市の施策として障がい者の外出支援を目的に、自家用有償旅客運送とは別に福祉タクシー利用券の交付及び重度重複障害者等移動支援事業を行っています。

福祉タクシー利用券については、平成27年度の利用状況は、肢体不自由の方、視覚障がい者、知的障がい者、内部障がい者であわせて147人へ交付を行っています。交付額は、1,783,600円、利用実績は1,122,300円となっております。

重度重複障害者等移動支援事業については、平成26年8月から事業が開始され、利用状況は身体障害者手帳1級又は2級、療育手帳A判定、精神保健福祉手帳1級のいずれか2つ以上を所持している方3名を利用登録しています。送迎件数は7件、利用額は、159,120円となっております。

障がい者支援事業として、当2事業は必要不可欠なものとなっておりますが、利用率が低い現状が見受けられますので、利用促進の啓発を広報紙及び南丹市CATVで行っています。

○南丹市福祉タクシー券交付状況

	平成26年度	平成27年度
南丹市全体	144人	147人

南丹市の介護認定者の状況

H28.9.30

介護認定数	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
65歳～74歳	17人	53人	20人	39人	18人	19人	16人	182人
75歳以上	115人	447人	221人	460人	389人	266人	223人	2,121人
40歳～64歳	3人	9人	5人	6人	5人	1人	6人	35人
計	135人	509人	246人	505人	412人	286人	245人	2,338人

南丹市の障がい者手帳等所持者の状況（京都府登録者数）

○身体障害者手帳

	園部		八木		日吉		美山		市全体	
	27.3.31	28.3.31	27.3.31	28.3.31	27.3.31	28.3.31	27.3.31	28.3.31	27.3.31	28.3.31
1級	290人	314人	141人	164人	93人	104人	90人	100人	614人	682人
2級	138人	147人	82人	103人	49人	60人	37人	44人	306人	354人
3級	202人	213人	89人	90人	74人	91人	67人	79人	432人	473人
4級	413人	418人	237人	227人	141人	152人	137人	149人	928人	946人
5級	104人	110人	50人	56人	33人	39人	32人	41人	219人	246人
6級	121人	138人	37人	45人	29人	34人	33人	43人	220人	260人
計	1,268人	1,340人	636人	685人	419人	480人	396人	456人	2,719人	2,961人

	視覚	聴覚・平衡	音声・言語	肢体	内部	(内部の内、じん臓)	計
27.3.31	171人	254人	45人	1,395人	854人	118人	2,719人
28.3.31	208人	307人	46人	1,482人	918人	126人	2,961人

○療育手帳

	18歳未満		18歳以上		合計	
	27.3.31	28.3.31	27.3.31	28.3.31	27.3.31	28.3.31
A（重度）	16人	13人	114人	117人	130人	130人
B（軽度）	35人	40人	186人	183人	221人	223人
計	51人	53人	300人	300人	351人	353人

○精神障害者保健福祉手帳

	園部		八木		日吉		美山		市全体	
	27.3.31	28.3.31	27.3.31	28.3.31	27.3.31	28.3.31	27.3.31	28.3.31	27.3.31	28.3.31
1級	7人	7人	6人	6人	7人	6人	3人	3人	23人	22人
2級	59人	68人	31人	32人	27人	31人	9人	8人	126人	139人
3級	48人	52人	27人	34人	9人	14人	6人	9人	90人	109人
計	114人	127人	64人	72人	43人	51人	18人	30人	239人	270人

○精神自立支援医療受給者証

	視覚	聴覚・平衡	音声・言語	肢体	内部	内、じん臓	計
27.3.31	171人	254人	45人	1,395人	854人	118人	2,719人
28.3.31	208人	307人	46人	1,482人	918人	126人	2,961人

3. 公共交通機関について

本市における交通基盤は、北部に国道162号、南部に国道9号、国道477号、国道372号、京都縦貫自動車道が走っており、区域内を走る各府道が国道へのアクセス道路となっています。また、鉄道については、本市の東西をJR山陰本線が走っており、この山陰本線と市内の路線バス及びタクシー事業者により公共交通ネットワークが形成されています。

路線バスとして、京阪京都交通、JRバス、南丹市コミュニティバス「ぐるりんバス」、市営バスが広大な市内を運行しておりますが、バス停から居住地が遠い場合もあります。

デマンドバスについては、バスが通っていない地域を中心に平成23年4月からの実証実験を経て、予約方式のバスを平成24年から日吉地区および美山地区で、八木地域では平成25年から運行しています。このように出来るだけ利用しやすい路線設定やバス停の位置、フリー乗降に対応するなどの工夫をしているところです。

また、車両については、通常バス路線はノンステップバスやワンステップバスを導入し、高齢者の方や身体に不自由を感じている方などが利用しやすいように配慮を行い、デマンドバスについては、タクシー事業者所有の乗用車で行っています。

タクシー事業者は、市内に7事業者が運行されており、園部・八木地域には株式会社京都タクシー、NPO法人京都福祉センター、南丹介護タクシー、南丹タクシー、アンシン福祉タクシーがあります。園部・八木地域で運行されている車両は57台で、内、福祉車両は4台となっています。日吉・美山地域では株式会社京都みやび交通、タニタクシーがあります。日吉・美山地域で運行されている車両は3台となっています。それぞれの事業所において高齢者等に配慮いただいた運行を実施しており、また一部の事業所においては、車いす等対応の福祉車両による対応をされており、今後においても移動制約者の重要な移動手段となっています。

市の東西を貫通するJR山陰本線は、八木駅、吉富駅、園部駅、船岡駅、日吉駅、鍼灸大学前駅、胡麻駅と7駅あります。1日の乗降者数は、平成26年度の平均では約15,468人となっております。このJR山陰本線は、京阪神と京都府北部とを結ぶ大動脈として、交通網の要となっており、JR嵯峨野線京都・園部間では複線化され、利便性が向上しております。また、車いす対応エレベーターが設置されている駅舎もありますが、その他の駅舎については、車いすで移動しやすいバリアフリー化がされておらず、高齢者や障がい者にとって利用しやすい施設となっていない現状があります。

このような状況の中、高齢者等がいつまでも住み慣れた地域で安心して自立した生活を続けられるよう、引き続き高齢者の自立支援、社会参加の促進、安心と支え合いの仕組みづくりに取り組む必要があります。特に高齢者や心身に障がいをお持ちの方の定期的な通院については、自身の疾病の治療、健康管理のために必要不可欠なものとなっており、本市における地形的な要因と高齢化が急激に進んでいるなどの社会状況の中、交通弱者への支援が必要となっています。